

厚生文教委員会報告書

令和6年6月24日

備前市議会議長 西 上 徳 一 殿

委員長 中 西 裕 康

令和6年6月24日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第64号 備前市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	なし

<所管事務調査>

- 吉永中学校外のグラウンド整備について
- こども基本法について

<報告事項>

- 教育施設の老朽化への対応について（教育委員会）
- A L Tの採用、配置状況、活用方法等について（教育委員会）
- 給食共同調理場の改修進捗状況について（教育総務課）
- I B教育の進捗状況について（国際教育課）
- 令和6年度備前市立学校児童・生徒数、学級数について（小中一貫教育課）
- 片上高等学校の入学者等の状況について（小中一貫教育課）
- 備前市内通学路の危険箇所一覧について（小中一貫教育課）
- 備前市立学校の生徒の進学状況について（小中一貫教育課）
- 小中一貫教育の取組状況について（小中一貫教育課）
- 令和6年度入園申込状況について（幼児教育課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第64号の審査	2
報告事項	3
所管事務調査	18
閉会	21

厚生文教委員会記録

招 集 日 時	令和6年6月24日（月）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午前11時30分	閉会
場所・形態	委員会室　　会期中（第3回定例会）の開催			
出 席 委 員	委員長	中西裕康	副委員長	青山孝樹
	委員	土器　豊		守井秀龍
		立川　茂		藪内　靖
		奥道光人		草加忠弘
欠 席 委 員		なし		
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列 席 者 等	議長	西上徳一		
傍 聴 者	議員	なし		
	報道関係	あり		
	一般傍聴	なし		
説 明 員	総合教育部長	畑下昌代	教育総務課長	春森弘晃
	国際教育課長	守屋孝治	小中一貫教育課長	谷口健一
	幼児教育課長	文田栄美	放課後子ども教育課長	出射詩都
審 査 記 録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日は、教育委員会関係の議案審査、所管事務調査を行います。また、先日に引き続き、休憩中に自己紹介を実施します。

それでは、議事に入ります。

***** 議案第64号の審査 *****

次に、議案第64号備前市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についての審査を行います。

議案第64号について質疑を希望される方は挙手でお願いいたします。

議案書2ページ、細部説明は8ページをお開きください。

○守井委員 対象のところがどんぐりえんの1園だけだったような話なんですけど、公立の保育士の場合はどんなんですか。保育園はないから別に問題ないということですかね。こども園の状況はどんなか、併せてお願いします。

○文田幼児教育課長 公立の10園につきましては、国の定めております就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づきまして、県で許可の条例を定めております。公立の園についてはその条例に基づいて実施するようになっておりますので、今回の家庭的保育事業等の条例につきましては、市が認可をする園が対象となっております。

○守井委員 人数的なものは公立の場合はもうなっておるということで解釈しとってよろしいんでしょうかね。

○文田幼児教育課長 4月から国の定めるとおりになっておりまして、備前市では以前からそこに目指して配置をするようにしておりますので、公立の園ではきちんとそのように配置されているようになっております。

○中西委員長 ほかにはございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ないようですので、質疑を終了してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより議案第64号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第64号は原案のとおり可決されました。

以上で議案第64号の審査を終わります。

それでは、職員入替えのため、暫時休憩したいと思います。

午前9時32分 休憩

午前9時44分 再開

○中西委員長 それでは、委員会を再開いたします。

***** 報告事項 *****

所管事務調査に先立ち、執行部からの報告事項をお受けいたします。

1件ごとに質疑を行いますので、よろしくお願いいたします。

○春森教育総務課長 教育施設の老朽化への対応についてになりますが、現在皆様御存じのとおり備前市も合併して20年、施設全体が老朽化しており、議会の一般質問でも教育施設以外、プールとか、そういった施設とかもたくさん老朽化の形で支障が出とるのは御存じのとおりだと思います。現状、教育施設の老朽化の対応につきまして今年度の事業としては、今進めておりますのが、まず対応していておりますのが、対応できないものも含めてですが、夏場を迎えましてプールとエアコンの対応に今現状は教育総務課のほうは追われておる状況でございます。

プールにつきましては、現状、今年度片上小学校がプールの活用ができないという形で久々井の運動公園へ行ったりします。東鶴山のほうもろ過器が故障しておりまして、修繕があまりかからないと見込んでいるんですが、そのろ過器の部品の搬入が1か月以上たつので、実際夏が終わってしまって、1学期が終わって、プールの授業ができない形の機械の修繕になりますので、今年度は久々井の運動公園のほうでさせていただく形で対応させていただいております。あと、香登小学校が現在プールの水位が、何が原因か分かりませんが、水位が下がってくるという形になっておりまして、そちらの対応につきましては、現状は今年度は水道代が上がったとしても、ろ過器が使えますので、そのまま使っていただいて、シーズン終了後、原因調査をしたいと思っております。実際は調査後に金額が判明しますので、その後どうするかは未定でございます。

それから、老朽化への対応につきまして、エアコンも順次壊れているものがありますが、優先順位としては普通教室、それから次に職員が常時おる部屋、それから特別教室という順番で対応する形でしておりまして、今現状幾つかのところを入札しておったり、金額の要件によってはこちらのほうで随契で発注する形を進めております。

それ以外につきましてはですが、実際、先ほど説明しましたとおり、全体的に老朽化が進んでおりますので、今後一度全体的な各学校の状況を踏まえた対応を教育委員会会議で検討してまいりたいというのが今現状でございます。

○藪内委員 確認したわけではないんですけど、片上小学校のプール、汚い水が出るとかで、もう去年から使われてないとのことなんです。

○春森教育総務課長 おっしゃるとおりです。先ほど言いましたように、プールのほう、教育長とともに順次いろんなところを全部、片上小学校、香登小学校、東鶴、あと西鶴とか見ていたり、先日の総合運動公園のプールも教育長自身は確認に行かれたりしておりますので、プールに

ついてはかなり現状的には老朽化が激しい状況になっておりますが、片上についてはもう建築年度とか踏まえて、かなり配管自体の問題が発生しているのではないかと考えておりますので、もし工事すると相当のお金がかかると考えております。ただし、同様な形で既に日生のほうももう使っていない状況になっておりますので、現状は教育委員会としてはもうなるべく運動公園や日生のプール等の利用を活用できるようにしたいと考えておるのが現状でございます。

○**藪内委員** 運動公園のプールを使うには、一つの授業としては時間がかかり過ぎますけれど、それは個々にもう学校でプールをどうこうというのは、本当費用対効果でいうと全然合わないの、そういうところを使用するのがいいんですけど、逆にこの間、教育長と見に行かせていただきましたけれど、日生のプールなんかは悲惨な状況で、子供が行くのにそこが危ない状況なんで、検討もいいですけど、早い処置をお願いしたいんですけど、どうでしょうか。

○**春森教育総務課長** 所管が教育委員会ではないので、私も画像で教育長から送られてきたものを確認しましたが、万が一、劣化して落ちてきたときの状況とか踏まえたときに、改修を早めにしていただけたらなというのは思いであります、私のほうでいつというのでお約束できないので、御了承ください。こちらからは要望はしてまいりたいと考えております。

○**守井委員** 施設の維持管理をするということは、非常に大変なことだと思っております。耐用年数をどのぐらいもたすかというようなこともあるわけなんですけれども、施設を管理する上ではできるだけ早めに対応すると、何かあったときにはその都度都度、早めに対応して、事が大きくならないうちに修繕なり、発見をして少しのことを直しておいたら大きな破損にはつながらないということがありますので、その辺の管理、しっかりそれぞれの部署でやっていただくように、使いつ放し、やりっ放しみたいな形でしたらすぐ傷んでしまいますのでね、常に管理をどうするかということ、よく徹底させていただいて、支障がある場合は早め早めの対応を、少しの手によって大きく壊れることをとどめるということをぜひやっていただきたいと思います。

耐用年数で本格的に直さなければいけないということについては、早めにそれぞれの所管と対応を協議して、できるだけ簡単な方法でやり替えるとか、新しい方法を検討していくということに対応していただきたいと思います。

○**春森教育総務課長** おっしゃるとおりだと思っております。先ほど言いましたとおり、老朽化に伴い、備前市教育委員会としての長寿命化計画というのがあるんですが、そちらのほうも恐らくこの令和6年とか7年以降とかに本来各学校を直していくのが、計画的に直さなければならないという中期的なスパンの修繕年に入ってきますので、そういったものについては、先ほど言いましたように、教育委員会会議で検討協議の上、進めてまいりたいと考えておりますので、御理解をいただけたらと思います。

○**中西委員長** ほかにはございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**守屋国際教育課長** 現在のALTの採用、配置状況、活用方法等について御報告を申し上げます。

す。

一般質問で市長からも答弁がございましたけれども、現在10名のALTの採用を行っておりまして、9月から、答弁のときには4名とお答えをしたと思うんですが、残念ながら1名辞退が出ましたので、3名が9月から新たに増員されるという状況になっております。

配置状況につきましては、こども園に今1人のALT、1人で10園を今担当していただいております。小学校につきましては4名のALT、中学、高校につきましては5名のALTに担当していただいております。9月から3名新たに採用になりますので、小学校またこども園等に振り分けて配置をさせていただこうと考えております。

活用方法につきましては、こども園につきましては1人で人数が少ないなと思われている委員の方も多いと思うんですが、こども園でやる幼児英語というのはネイティブ、外国人だったら誰でもいい、英語がしゃべれれば誰でもいいというわけにはいかないんで、フォニックスとかあるいはTPRという幼児を教える技法がございます。そういったものをきちんと習得し、経験のある方に担当をしていただいております。

それから、小学校につきましては、1、2年生につきましては担任を中心にALTと一緒に英語の授業を担当してもらっておりますので、こども園等の経験のある方を小学校に配置したいという思いでやっております。しかし、小学校は御存じのとおり英語の専科の先生もいらっしゃいますので、この専科の先生方としっかりコミュニケーションを取りながら、小学校全学年担当できるようにコミュニケーションがきちんと取れる方ということを大前提にして配置をさせていただいております。

中学校につきましては、日本人の英語の教員がどの学校にもいらっしゃいますので、学校現場でALTの経験があるということで、あとは日本人の英語の先生とコミュニケーションを取りながら教育課程に沿って指導をしていくという形、中学校は主は日本人の英語の先生となっておりますので、しっかりコミュニケーションを取りながら授業を担当していただいております。

○土器委員 採用は正職員ですか。

○春森教育総務課長 会計年度任用職員であります。

○土器委員 給料なんかはどんなんですか。例えば、市役所の職員の給料と比べて。

○春森教育総務課長 2月議会で新しい会計年度任用職員予算を認めていただきましたので、一般の会計年度任用職員の方よりは多い形の設定をしており、計算上は初年度は若干少ない、JETという形で5年間来る国際的な英語の派遣の職員に対する給料より初年度は少なくなります。2年度目以降、きちんと全部来られればJETのプログラムで最終5年度目の給料よりも増える形での予算設定になっております。

○守井委員 ALTに来ていただいて10年近くなるのかなと、各学校それぞれ配置していただく方向で、英語教育、それから国際教育の応援の成果があるんじゃないかなと思うんですけど、具体的に低学年ではどのくらい英語がしゃべれるかなというところの補助、あるいは高学年、中

学校、具体的に、例えば挨拶は英語できちっと全部できるとか、何かそんな目標みたいなのがあったほうがALTの成果なり、学校でのALTさんを採用している価値があるんじゃないかなと思っておるんですけども、その辺の目標なり、成果なりを発表できるような方法の何かお考えがあるかどうか。

○守屋国際教育課長 公立の学校ですので、学習指導要領、また英語の教育課程にそれぞれ教育目標というものが出ておりまして、英語についても同じように目標があります。あわせて、以前委員の皆様にも配付をさせていただきましたが、本市の場合には幼・小・中とALTを全園、また全校に配置を昨年度までしておりましたので、それをより効果的にするために、幼・小・中、英語の一貫教育を推進するプログラムというのを小冊子でお示しをしたと思います。それにも具体的に小学校の低学年の段階、中学年の段階、高学年の段階でこういうことをできるようになったらいいなというのは一応お示しをさせていただいております。また、必要があれば改めて冊子を御用意させていただきます。

○守井委員 ぜひそれを見せていただくとともに、子供たちが実際そんなことができているのかなど、簡単に英語で話をするのできるのかなと思っていますので、ぜひよろしく願いいたします。また、提示してやってください。

○藪内委員 最初は各校1人ということでやられていました。多いのか少ないのか分かりませんが、その当時は多かったのか、今少ないのかどうなのかという疑問はあります。私は、各校1人要らないんじゃないかと思っていたほうなんです、生徒・児童数が多いところも、少ないところも1人で走っていたわけじゃないですか。その辺のバランスはどうだったんでしょう。

○守屋国際教育課長 やはり生徒の人数が多い、少ないというのは、環境で違いは出てくると思うんですけども、ただALT、また英語を担当する日本人の授業の時間数というのは教育課程で決まっていますので、その中で授業を進めていきますから、格段の差が出るということはあまりないんじゃないかなと思っています。

それから、今年度の段階でいいますと、1人のALTが複数の園や学校を担当するようになっていますから、昨年度のように、もうフルタイムで一日中1人のALTが常勤で学校にいるという状況が中学校はあるんですけども、小学校、幼稚園はその状況がありません。そういった意味での全体的な昨年度との環境の違いというのは、ALTが人数、きちんと採用できていないというところから昨年度と比べると様子が違うという状況は今年はあるのかなと思っています。もっと頑張って採用に力を入れてやらなきゃいけないなと思っています。

○藪内委員 状況、環境の違いは、そのときそのときで違うんでしょうけれど、もともと目指していた、去年まで目指していた英語教育、英語の力をつけるということに関しては、今ははっきり言って足りないというんですかね、私はそこまで思わないけど、足りない状況であって、その辺の到達度といいますか、その辺はどうなんでしょう。

○守屋国際教育課長 与えられている環境の中で最善、最大の成果を生むように頑張るしかない

と思っておりますので、ぜいたくを言えば、各学年に、あるいはもっとぜいたくを言えば、各クラスにALTがいるっていうそういう状況があれば、もっともっと変わってくるかもしれないとは考えています。

○**藪内委員** 各クラスにいたら、それはまた学校が変わってくるような気がするんですけど、一生懸命やってください、よろしくお願いします。

○**青山副委員長** 昨年より少しというか半数近く減っているということで、授業とか学校内でのALTの活用ということもあるんですけど、その他の授業で活用するとか、そういったお考えはないですか。

○**春森教育総務課長** 今回直接雇用になる段階で、基本的には今までのALTだけの業務ではなくて、いろんな形の学校の補助を募集要項には書いておりますので、そういった形の学校の今の先生の働く現場ですね、そういったものの支援になるようにこちらとしては考えております。

○**青山副委員長** 備前市は、少なくなったとはいえ、かなりの人数が雇用されているんで、できれば各校1人ずつの子供との対話じゃなくて、ALTを集めての大人数に触れ合うような企画もされたらどうかと思うんですけど。

○**守屋国際教育課長** 昨年度から、三石中学校であるとか吉永中学校であるとか、備前市内にいるALTで時間的に許される方、Zoomを使つてのオンラインでの英語のコミュニケーションの会を既に行っております。委員おっしゃるように、もうちょっといろんな学校へ、多くの学校へ拡大させていくように私たちも取組を考えていきたいなと思っております。

○**青山副委員長** そういったようなこともやられているようなんですけど、多くの外国人と触れ合う機会というのが持てるんじゃないかと思いますので、またそういう企画も考えていただけたらと思います。

○**中西委員長** ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**春森教育総務課長** 給食調理場の改修進捗状況についてになります。

昨年の12月の11月議会のときに市長から、吉永の共同調理場の給食の一緒に食事ができるランチルームがあるので、市長自身が見られて、残したいというお話がどなたかの一般質問のときに回答があったと思っております。それを踏まえまして、現状、再度今現在教育委員会としては、もし吉永の共調を残した場合の体制であったり、運用であったり、車の移動等幾つか確認を取っております。もし吉永を残した場合であれば、ほぼ改修費用はないままで、あまり西鶴のほうに入る、西鶴がなくて伊里に入ることは可能ですが、一番問題なのが車ですね、コンテナを積む車の配送の関係で、そのコンテナのある車を入れる環境等がいろいろ変わってきたりする状況になっておりまして、その部分の対応をどうするかを考えているのが現状でございます。

あと、なかなか難しいのが造られた建築年度が西鶴と吉永がかなり古い、今の伊里や日生より10年ほど古いんですが、それぞれ使っている機械が古い2つにつきましてはガスで、伊里と日

生が電気なんで、調理器具の簡単な移転というのができないというのが現状ありまして、そういったものも踏まえて再度今調整をしておりますが、先ほど言いました施設の老朽化と同じですね、4調理場とも今度は使っている機材のほうがかなり老朽化しており、なかなか業者で修繕対応ができないという現状が出ておりますので、教育長も踏まえて教育委員会で協議してまいりたいと思っております。

○守井委員 先ほども話しましたが、施設を管理するというのは何事も大変で、使われようるほど古びていくということで、器具なんかのことはできるだけ早めに気がついた時点で少しずつ改善しておるということで、全く使えなくなったというところまで使うんじゃないくて、できるだけ早めにちょっとしたことでも修繕をかける、ある程度簡単なことなら早めに対応していくということを基本にしながら、年数を経過を見ながら大規模に改修せにゃいけん場合は、計画を立てて、財政計画も立てなきゃいけんと思いますので、そのような運営でぜひお願いしたいなと思います。

○春森教育総務課長 本当に全体的に機材が古くなっておりますので、昨年のスチームコンベクションオープンが壊れたという話があったときも、その後、入札しまして入っていますが、そういったものは新しくなっているんですが、それ以外のものというのはもうほとんど建築年度直後のものがたくさんありますので、そういったものについては今後早めに検討してまいりたいと思います。

○立川委員 そもそもこの給食調理場、どういう計画でしたかね。機器も老朽化していますので建て替えますという計画がありましたよね。現場の方もここへ来られて、プレゼンされて、こんなですよと。どこ行ったんでしょうね。

○春森教育総務課長 御意見ごもっともな部分もございますが、一応最初のときが恐らく4つを1つに集約という話で、議会で否決された（後刻訂正あり）関係で、3場でという形で臨時議会でやったのも把握しております。その関係で進めておったんですが、今度新しく吉永を残すという話になった段階で、現状3つを残したままで、また施設を造るのが正解なのかどうなのかも踏まえて、大規模修繕をするのが適正なのかどうかも踏まえて、本当に検討したいと思っておりますので、先ほど言いましたように、今後の人口見込み等も考えながら、いろいろ進めてまいりたいのが正直な話でございます。委員のおっしゃることはごもっともだと思いますが、再度教育長含めて教育委員会で慎重に議論させていただけたらと思います。

○立川委員 教育委員会を応援したいなと思って質問しております。

皆さん方が立てた練られた計画だと我々は理解しておりました。今聞いたら、大人の事情で、何かこっちがええわと言ったり、いや一緒に考えます、計画します。老朽化ひっくるめて、教育委員会としてこういう案です、教育委員さんともお話をして、こうです、こうやりたいんです。今お話を聞きしたら、いや、またいろいろ検討して。いつまでも検討するのを大人の事情で、子供たちのことを一番に考えていただきたいな、そこでお仕事されている調理員さんの方、大変

困惑されているとお聞きをしておりますので、子供たちや気持ちよく働いていただいている皆さんのためにも、やはり一本筋が通った教育委員会の案というのをあると思いますので、なぜそれを出してくれないのかなという思いでおりますが、部長、いかがですか。大人の事情ばかり優先ですか。

○畑下総合教育部長 いろいろ計画を立てておりますが、変わって大変申し訳ないと思っています。今課長の言ったとおり、子供の人口等もいろいろ変わってくることなので、しっかり教育委員会でも一緒にやらせていただいて、計画を提案していきたいと思っております。

○立川委員 子供が減るといのはもうはなから分かっていたことじゃないですか。それを今さら子供が減るから、また計画を直します。こういうことではないと思いますので、どうか大人の事情を入れないで、最善の道を探って、今までのがよければ、それが変更という形でという気概を持っていただきたいと思います。

○青山副委員長 計画が変わったということなんですけど、当初の伊里調理場の計画の中で、あそこの格技場が潰されるんじゃないんかとか、使えなくなるんじゃないかということで、かなり地元のそこを使っている者とか、あるいは学校のほうでも雨が降ったときに使えるような施設がなくなるとかということで、意見聴取もされたりしたと思うんですけど、そもそも伊里調理場はどうなるのでしょうか。

○春森教育総務課長 今現状のものの改修だけでいきますと、恐らくコンテナの車の形を変えるだけで対応できて、西鶴だけを共同調理場をやめた場合はできてしまいます。ただ、議員さん皆さんとお話しした部分の話として、過去の議会の判断いただいたのも、将来を見据えた体制であったという形の分なんで、そういったものが入ったときに、ここで形の車の配置だけを換えて対応するのではなくて、本筋論でもう一遍どこまできちんとするのかを検討してまいりたいというのが現状で、現時点では伊里共調、もしするのであれば、車の新しい配備、車も一応現状のコンテナで回るとは回るという確認は取れているんですが、それが理想的なルートになるのかどうかは考える部分がございます。それと、あくまでも現状であれば、食数的には伊里調理場に西鶴を持ってきた場合、一部の伊里調理場でやっているものを日生調理場にほかの学校を出して入れる形によって全体的な食数は足りる形になりますので、あまり大きな改修にはならないというのが現状でございますが、それをそのままするのかは現状を、こちらのほうの試算であり、確定したものではありません。

○青山副委員長 この件について、学校、保護者あるいは地域へ何か説明とか、そういったようなものをされているのでしょうか。かなり期待感があつたと思います、地元あるいは保護者から聞く意見でですね、衛生的になる、そしてそこを拠点でいろんなところへ配送すると、そういった変更について今後どのように説明されるおつもりですか。

○春森教育総務課長 先ほど言いましたとおり、まだ検討段階であり、内容を説明するというのは、確定したこうしたいというものがないので、今現状では予定しておりませんが、最終的な段

階ではいろんな形で周知してまいりたいと思います。

○青山副委員長 決まってしまってからこうなりましたではなくて、大きい変更になると思いますので、その辺は地元あるいは学校、保護者の意見も何らかの形で聞いていただけるようなことも考えていただきたいと思いますけど、いかがですか。

○春森教育総務課長 西鶴山調理場が伊里に入るのであれば、そちらはその状態になりますし、それ以外の選択肢というものがあれば、またなりますので、それぞれの状況に応じていろんな形で対応させていただけたらと思います。

○中西委員長 これまでの教育施設の老朽化の問題や共同調理場の老朽化の問題含めて、教育委員会の中での長寿命化計画をどうしていくのかというのは、また委員会としても所管事務調査で少し教育委員会からもペーパーを出していただきながら、一度検討ができたと思います。

○守屋国際教育課長 IB教育の進捗状況について御報告を申し上げます。

既に小学校対象のPYP、それから中学校対象のMYPの候補校に全校がそれぞれなっております。その後、IBO国際バカロレア機構から各学校担当のコンサルタントが決まりまして、今は学校現場のコーディネーターとそのコンサルタントとのやり取りで次の準備に進んでおります。コンサルタントのアドバイスを受けながら学校現場のほうでIBのカリキュラムと学習指導要領に基づく教育課程とのすり合わせを行ったりして、学校独自のカリキュラムをつくっていくという作業になります。

そのためのいろんなワークショップや研修会としまして、この夏、8月に本市の中で全ての小・中学校対象にした院内ワークスクールというのが行われます。あわせて、今年度異動で新しくおいでになられた校長先生、それから異動で新しくコーディネーターの任命を受けられた先生方を対象にしたワークショップもこの8月に開催をされますので、該当する先生方は参加をしていただくことになっております。

○守井委員 IB教育、素晴らしいことだと思います。より深い探究心を養うということで、東京へ行っている子供がおりまして、普通の生徒と変化が違ような子供だったんで、どこの小学校ですかと言ったら、やっぱりIBのバカロレア教育の小学校だとお聞きしました。東京でもいろいろ始まっているんだなという感じを持ったんですけど。あわせて、公立15校が全てIB教育の学校ということで、保護者とお話ししましたら、びっくりするようなお話をお聞きしました。なかなか大変だろうと思うんですけどね、ぜひせっかくやろうとしておりますので、全国に先駆けて立派なIB教育ができるようにぜひお願いしたい、少しでも前へ進めるようにお願いしたいと思います。

○守屋国際教育課長 課のみならず、教育委員会挙げてこのIB教育を推進していくように頑張っていきたいと思います。

○奥道委員 先ほど新任の、転入といいますか、校長先生とコーディネーターの先生、もう既にそういった先生方とのコミュニケーションといいますか、要するにワークショップだけで、それ

で片がつくわけじゃないと思うんですね。そこらはもうずっとされていると認識しとけばいいですか。

○守屋国際教育課長 国際教育課の中のI Bグループの丸山主査が、特に新しく今回任命あるいはおいでになった校長先生方には、これまでのことのお話も含めて、個別に学校を訪問して対応させていただいております。まだ、全部が終わっているわけではございません。引き続き丸山を中心に、今委員がおっしゃったように事前の学習会的なことをやらせていただいております。

○奥道委員 新任の先生方の反応は掌握されていますか。

○守屋国際教育課長 中には既に引継ぎをされている方もいらっしゃいますし、事前I Bということで御自分でネット等でお調べになられている方もいらっしゃいますし、まるっきり初めて聞いたという方もいらっしゃいます。丁寧に研修をさせていただく予定でございます。

○中西委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○谷口小中一貫教育課長 令和6年度備前市立学校の児童・生徒数、学級数について報告をさせていただきます。お手元の資料を御覧いただきながら聞いていただけたらと思います。

御覧いただいとります資料の右下に、昨年度と同時期のものを比較した表を載せております。

小学校では、児童数35名の減少、学級数は2学級の増加です。学級の増減があったのは、通常学級では東鶴山小学校において複式学級の解消がありましたので1学級増加、特別支援学級では吉永小が1学級増加となっております。

中学校では、生徒数が5名の増加、学級数は1学級増加です。学級数の増減があったのは、通常学級で備前中学校が1学級増加、日生中が1学級減少、特別支援学級では備前中、三石中がそれぞれ1学級増加、吉永中が1学級減少となっております。

片上高等学校は、生徒数4名の減少、学級数の変化はございません。なお、令和6年度の入学者は9名となっております。

○奥道委員 伺っていいのかなのか分からないんですけど、学級数イコール担任数ではないですよね。担任の先生方の数というんですかね、そこらもそれぞれデータとしてというか、表として載せていただけたらどうかなと思うんですが。

○谷口小中一貫教育課長 担任の先生の数ということでございましたら、学級数とイコールということになります。これに付け加えて加配の先生という形でお示しをすることはまたできるかなと思いますが、そのような形でよろしいでしょうか。

○奥道委員 それで結構です。お願いします。

○谷口小中一貫教育課長 次回の委員会にお示しできるように準備をさせていただきます。

○土器委員 1番が西鶴山小学校、4番が片上小学校ですね、5番が伊里小学校になっとるんです。本来ならば、東鶴山小学校が6番じゃないかと、入替えじゃないかと、5と6が。物すごい見にくいんです。せえて、備前中学校区ですわね、東鶴山小学校。そういう形で見やすいように

できんのかなと、出すときにね。

○谷口小中一貫教育課長 御意見ありがとうございます。行政番号順でいくとこういう形になるんですけど、委員さんおっしゃるとおりで、中学校区別にするほうがより見やすいのかなと思いますので、検討させていただきます。

○青山副委員長 小学校から中学校へ校区を変えた、変えたというんか転籍についてなんですけど、今年度の状況というのはどのようになつていきますか。

○谷口小中一貫教育課長 数のほうがすぐお示しすることができませんが、規定にのっとって、部活のことであつたりとか、転居とか、そういった事情で小学校から中学校に上がる住所を根拠とした進学先から違う方もいらっしゃいます。また、市外の県立であるとか私立へ進学されたお子さんもございます。

○青山副委員長 条件というのが3つあつたかなと思うんですけど、先ほど言われました保護者の住所の異動、それから部活動、特別な事情ということで人間関係等あつた場合とお聞きしておつたんですけど、部活動の異動について、例えば小学校のときの実績とか、そんなようなことというのを問われたりはしとんでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 昨年度、規定の見直しをして、その実績のあたりも踏まえて、小学校時代の実績なんかも踏まえて判断をさせていただいております。

○青山副委員長 小学校のときの実績というのが、例えば個人種目とか集団種目で変わってくると思うんですけど、その辺の線引きをどうされているんか、先ほどの、今年度の状況等踏まえて、その転籍の条件、それを何か表でいただけたらと思うんですけど、いかがですか。

○谷口小中一貫教育課長 形にしてお示しできたらと思います。

○立川委員 小学校で特別支援の児童数が107人、10%近い数、学級数は22クラスで27%。中学校を見ても、45名で、これも7%ぐらい、生徒数ですね、学級数が12で、クラスが33クラスのうち12ですから30%超えていると。最近こういう傾向が続いて、学校も人手を取られると風のうわさでお聞きはするんですが、昔やっていたのとちょっと変わって、今ASDというくくりで、自閉スペクトラムというくくりでアスペルガーだとか自閉症とか全部まとめてしておられるんですけど、これが増える傾向が見てとれて、現場も困っておるんですが、その辺の対応策、併せてですけど特別支援学校との連携について、現状をお教えいただけませんか。

○谷口小中一貫教育課長 現状、委員がおっしゃるとおりで、増加傾向にございます。それに対して手だてといたしましては、まず一つとしては教員の専門性がどうしても求められてくるところでございますので、特別支援学校の免許の取得を勧めております。夏休み等の少しでも取りやすいような期間を利用しての取得を勧めておるところでございます。

それから、市費でも教育支援員さんを認めていただいております、そちらの配置によりまして担当する教員とのチームを組んで、その子に、一人一人の適切な支援に至るような努力をして

おるといったところでございます。その支援員さんも含めまして研修という形で障害種、それから一人一人の子供の特性に応じた支援にどういったものができるのかといったあたりも研修等通じて理解を深めておるところでございます。

それから、特別支援学校との連携というところでございますが、特別支援学校から教員の方にも来ていただいて、一緒に本市の市教委の指導主事とともに学校を回って、今の支援の状況を把握した上で必要な指導、助言といったあたりを行ったりですとか、それから先ほど申しました支援員さん含めた研修会にも講師としておいでいただいたりですとか、そういった形でより専門的なものに我々も一緒に学ばせていただくようなことを工夫しております。

○立川委員 大変御苦労な部門だと思いますので、コミュニケーションがうまく取れないよとか、人との関わりが苦手だという子たちですね、今お聞きしたんですけど、特別支援学校、これ多分A S D診断がなければ入れないんじゃないかなという条件も聞いたんですけど、その辺はどうですか。

○谷口小中一貫教育課長 手引がございます。その手引に示された内容と照らし合わせながら、こういう今特性等お持ちだということで、県とも協議をしながら判断をして適切な就学指導につながるように努めております。

○立川委員 そういったところの相談業務も今から、例えば学校にお任せじゃなくて、今課長おっしゃいましたように専門性の職員さん、支援員さんでは難しいのかなと、特にその部分ではC Pさん、臨床心理の方もいらっしゃいますし、その辺の委託ですね、専門家との連携というあたりは今どうなっているのでしょうか。また、今後どうされるのでしょうか。多分必要だと思いますけど。

○谷口小中一貫教育課長 先生方とも研さんを深めて専門性を身につけていきたいなど、県の研修もですし、市でも独自に研修を持ったり、それから実際に我々も学校現場に伺いまして、それぞれの子供のケースに応じた支援を一緒に考えておるところでございます。そのような形で、一人一人の適切な支援につながるように努めてまいりたいと思います。

それから、必要に応じて市役所内でも関係課とも連携を取りながら、学校現場のところだけじゃなくて私生活も含めた支援ということになるように努めておるところでございます。ありがとうございます。

○立川委員 本当に専門性のあるC Pさんあたりの雇用も考えていただいて、カウンセリングルームでもいいですから、ぜひ設置をお願いしたいなと思います。といいますのが、現場の先生がもう疲弊してしまって、多分課長も御存じだと思いますが、今管理職の先生方、教頭先生であったり、そっちに手を取られておるといようなこともお聞きをしておりますので、その辺のケアも、おっしゃったように研修に行くのが重荷になってる先生、苛酷な業務ですから、そこら辺も御配慮いただいて、教員さんのメンタルヘルスもしっかりとお願いして進めていただきたいと思います。

○畑下総合教育部長 全体的にこういう支援の方が増えているというお話は私も聞いております。先生方のメンタルな部分も含めて、よくなるようにしていきたいと思っております。

○立川委員 現場のほうはそれでお願いしたいんですが、もう一つお願いしておきたいのは、やっぱり家庭的な環境もございますので、できるだけ保護者の方とか、地域の方にも、こういったところの協力をお願いしないと、昔は近所に怖いおっちゃんがおって、遊んどかんと学校行かんかいというような感じで、元気なおっちゃん、おばちゃんがいらっしやいまして、ある程度はカバーできたんでしょうけど、保護者、PTA通じてもいいですから、そういったところのアプローチもぜひとも教育委員会さんをお願いしたいなと思うんですが。

○谷口小中一貫教育課長 委員さんおっしゃるとおりで、学校、それから家庭、地域と、みんなで子供たちを育てていくという中で、この特別支援教育の推進というところも大きな一つだと思っております。どういう形が整うのかといったあたり、また各学校とも協議を重ねながら検討してまいれたらと思います。

○土器委員 子供の関係は、私も6年ほど離れているもんでよく分からないんだけど、昔からあったんですか、子供の、今みたいな。環境が変わったから子供さんが出た、それとも昔もあったんじゃけど分からなんだというんか、どちらなんでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 昔と比べますと、こういう特別支援教育といったもの、医学的なものも含めて進んできた。理解も進んできて、こういう特性をお持ちのお子さんについてはこういう対応が要るんじゃないかといったような特別支援教育というものがよりクローズアップされてきたかなと思います。正しい理解につながるように、今後も努めてまいれたらと思っております。

○中西委員長 ほかにほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

暫時休憩したいと思います。

午前10時42分 休憩

午前10時56分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○春森教育総務課長 1点訂正させてください。

先ほど共同調理場のところで、4場を全部統合する案について否決されたという説明をしましたが、こちら誤りでして、正式には4場の形を統一する予算案を提出しておりましたが、そちらの部分が修正されて削除されたものが可決されという説明になりますので、御了承ください。

○中西委員長 よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○谷口小中一貫教育課長 片上高等学校の入学者等の状況について報告をさせていただきます。

お手元の資料を御覧ください。

入学者選抜の状況ですが、志願者が12名、そのうち11名が受験をし、合格者が9名。合格者全員が入学しております。

あわせて、卒業者の進路についても報告いたします。昨年度末11名が卒業いたしました。4名が進学、5名が就職しております。残る2名のほうがアルバイト等になっております。

○中西委員長 御質問はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○谷口小中一貫教育課長 備前市内の通学路の危険箇所の一覧についてということで資料を御覧いただけたらと思います。

令和4年度と5年度に実施いたしました通学路危険箇所点検の危険箇所一覧のホームページの掲載についての報告となります。

昨年度も報告いたしておりますとおり、その内容からの更新したものをこのたびホームページにも掲載しております。

今年度も、危険箇所については、関係機関や部署とも連携しながら、引き続き対応を進めてまいりたいと思っております。

○土器委員 市道1号線というて、畠田何とか線というて名前で、大内から香登の入り口までの市道が危ないんだけど、何で上がっていないのかなと思うんです。私も反省すべきところあるんですが、26年か27年ですね、香登の協議会の会長と、私は伊部で会長しとったんですが、一緒にあそこの拡幅整備ですね、できるところからやるという形で要望書を出す予定じゃったんですが、私の手違いで出てないんです。その後、議員させてもろうて一般質問を何回かしているんですけどね。危ないという形で上がってないことが不思議なんです。

○谷口小中一貫教育課長 こちらの通学路の点検につきましては、学校が地域の方や、それから保護者の方の意見も踏まえて、この場所が危険だというような報告を上げてきてくださいます。それを受けて、当課とそれから関係課、部署で現地を見に行って確認した上で、今後どうしていくかっていうようなことを話し合っていく流れになっておりますので、またそのあたりの声を上げていただくような形をお願いできればと思います。

○土器委員 一般質問でしようかなと思うんですけど、やっぱり危険に対する感性というものを、学校、地区に任せとるいや、せえまでの話じゃけどね。そこまでできんのかもしれんけど、やはり危険に対する感性というのを身につけにやを得んのじゃなかろうかなと思います。

○青山副委員長 対応中というのがかなり多いのかなという気もしますし、そのほとんどが道路上の標示というのかそういったようなものの再塗装というのが多いと思うんですけど、そんなに時間がかかるものなんでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 実際に、線を引く対応であるとかと手だてをするのが建設課になりまして、そちらのほうとも連携をして取り組んでおるところでございます。なかなか順序立てて今やっているというような報告は共有しておりますが、一括で改善というところまではなかなか至

っていないというような現状であろうかと思います。

○青山副委員長 通学路の安全ということで、子供たちの安全確保ということで、ぜひ優先順位を上げていただくようお願いしていただけたらと思います。

○中西委員長 ほかにはございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○谷口小中一貫教育課長 備前市立学校の生徒の進学状況について報告をさせていただきます。
資料を御覧いただけたらと思います。

5年分を掲載いたしておりますが、大体例年どおりの状況となっております。

○立川委員 この進学状況の表の中で、例えば一番左の上の備前緑陽高校、令和5年度、38名、19.0というパーセントがそれぞれ出ているんですが、分母は在校生という解釈でいいんですか。

○谷口小中一貫教育課長 200名が進学をしたというところで、200名の分母の中で38名、19%が備前緑陽高等学校に進学したと読んでいただけるとありがたいです。

○立川委員 最低で200人というのを分母に置いたらいいということですね。こっちに書いてもらったら助かります。

○中西委員長 ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○谷口小中一貫教育課長 小中一貫教育の取組状況について報告いたします。

資料を御覧いただけたらと思います。

昨年度、4月指定をしておりました3つの中学校区も含め、市内の全中学校区を小中一貫教育校として指定し、取組を進めてまいりました。小学校、中学校の先生方が目指す児童・生徒像を共有し、義務教育9年間を見通した授業改善、生徒指導、特別支援教育、健康教育等の取組を進めることができ、市内の学校現場において小中一貫教育の軸でも子供たちの育ちを進めていこうという機運が高まったことが昨年度の大きな成果として上げられるかと思っています。

また、小学校と中学校の先生方が共に取組を進めていく中でつながりが深まり、会議等の機会にとどまらず、日常の中で先生方同士のやり取りも増え、共同の意識の高まりとともに、それぞれの取組の充実、深まりも出てきたあたりも成果として上げられるかと思っています。

逆に、課題となったことといたしましては、始めた取組について継続したものになるよう定着させていくこと、子供たちにつけたい力を明確にしながら、より質的な向上を図っていくことが上げられます。それらの課題の改善や解決に迫るための今年度の主な取組の予定につきましては、お手元の資料のとおりとなっております。

今年度もこの取組を進めながら、PDCAサイクルを回し、小・中学校の先生方が共通理解の下、より深く児童・生徒を理解し、よりきめ細かく、より小・中の系統性、継続性のある指導を進めて、子供たちの育ちにつなげてまいれたらと思っております。

○奥道委員 この資料の、例えば備前学園はこれぐらい書かれていますが、伊里学園はこういう形で書かれてあります。内容が大いに違うと思うんですが、これはどういう経緯というか、つくられたのはどういう形でこれがつくられていったのかなということを伺いたいんですが。

○谷口小中一貫教育課長 学校区によってやはり学校の数も異なれば、先生方の数、それから子供たちの様子なんかも異なります。そういった実態を踏まえながら各中学校区での計画を立てていくということになります。もちろんたくさんのことをいっぱいできればよろしいんですが、なかなかそういうこともいかず、重点的な取組をするというところで今まとめたような形のものを今年度は重点的に取り組んでいこうというところでお示しをさせていただいておるところです。

○奥道委員 私が伺ったのは、例えば備前学園の具体的な内容というところに書いてあることは、これは現場の先生から、あるいは要は中学校から上がってきたと判断したらいいんですか。それとも、課長がつくられたものか。例えば、今言いましたように伊里学園はこれだけのことを取り組みますよ、具体的な英語をしますよということを上げられて、備前中、これだけですから、何かこれは一体、いや、伊里中に限らず、三石学園なんかすごい書いてある。これも先生方から上がったことなのかなと思いながら、それでどういう経緯でつくられたんですかということでご伺ったんです。

○谷口小中一貫教育課長 校長先生のほうで主に作成をいただいております。主にとというのが、それぞれの中学校区で校長先生同士の、中には園長先生も入ってのところで、校園長会で今年の方方向性を確認したりした上で進めていくというようなことになります。そのことを受けて校長先生方にまとめていただいたという経緯でございます。

○中西委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小中一貫教育課におかれましては、たくさんの報告事項を報告していただきましてありがとうございます。

○文田幼児教育課長 令和6年度の入園申込み状況について報告いたします。

横の一覧表のお手元の資料を御覧ください。

表の右下になりますが、4月1日現在で入園申込みが655人、入園決定者が651人で、入園の保留は4名となっております。この入園保留者から国が示している待機児童除外に該当する者を除きましたら、最終的な待機児童はゼロ人となっております。昨年の5人から5人減少いたしまして、待機児童が解消された形となっております。

なお、国が示しております待機児童除外に該当する内訳としては、表の右真ん中あたりになります、枠の中にございますが、特定の園のみを希望されている方が4名となっております。

今後も途中の入園等の申込みも見込まれますので、引き続き認可外の保育園や一時保育の御案内とともに、会計年度の任用職員の募集などを継続していきたいと考えております。

○土器委員 今、先生そのものは十分に確保されているんですか。

○文田幼児教育課長 4月1日現在では待機児童がゼロ人で、直近が6月10日現在で待機児童ゼロ人となっております。ただ、保留者が4月1日で4名と先ほど報告させていただいたんですが、現在保留者が14名となっております。職員のほう、やはり保留者の方まで確保するためには少し足りない状況にはあるんですけれども、引き続き会計年度の職員の募集などを行いまして、皆さんの希望の園に入園できるように努めてまいりたいと思っております。

○中西委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、報告事項に対する質疑漏れはございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

***** 所管事務調査 *****

次に所管事務調査を行います。

発言を希望される方は挙手願います。

○立川委員 先般の委員会で吉永町のグラウンドの整備図面も出されたんですが、確認ですが、グラウンドの中にあった赤線、青線、里道、水路の関係のお話は完了されたんでしょうか。

○春森教育総務課長 何も対応できておりません。

○立川委員 権利関係のところ、対応なしで、グラウンドの整備工事、全面が出ておりましたけど、問題ないとは思いますが、役所のする仕事としたらちょっと乱暴なのかなという思いがあるんですけど、権利者署名とか、そういったものもされるつもりはないんですか。

○春森教育総務課長 具体的な詳細までまだ認識しておりませんので、確認はさせていただきますが、現時点では昨年度末にそういった形で繰越しさせていただいて、プロポーザルをさせていただいた形になっておりますので、粛々と進めさせていただけたらと思っております。

○立川委員 予算についてプロポーザルで粛々とされるのはいいんですけど、権利関係のことで、グラウンドの真ん中を赤線が通っていますよ、里道が、横を水路が通っていますよ。これ知らん顔してグラウンドしていますよということに問題はないでしょうかというところのお話で、何とか頑張ってみますというお答えをいただいていたんで、その辺は進んだのかなと思って確認をさせていただきました。工事云々にお尋ねしとるわけではありません。権利関係のいわゆる法的な根拠の上に成り立つ工事なんで、その辺の解消はやられておるのかなという確認です。

○春森教育総務課長 確認させていただいて、こちらとしてもその内容について対応してまいりたいと思います。

○立川委員 問題はないとは思いますが、やはり市のする仕事ですので、そこら辺権利関係を無視してされるっていうのも、部長は前々から委員会出ておられたから御存じだと思いますけど、状況、よくそこら辺ね。一番危険なのは、工事したわ、何をしとんやと、ここに我々通る道があるやないか、水路があるやないかい、戻さんかいという対応ができませんので、十分コンプ

ラには御注意いただいて、報告いただけたらと思いますが、いかがですか。

○畑下総合教育部長 そちらも確認いたしまして、また報告させていただきます。

○青山副委員長 グラウンド整備、1年遅れということなんですけど、工法についてはどういう工法だったでしょうか。

○春森教育総務課長 土壌改良という方法になります。

○青山副委員長 これ暗渠までとかということじゃなくて、上側だけと捉えたらいいんですか。

○春森教育総務課長 いただいた予算の範囲内でやる場合、今回のものについては土壌改良という手法になっております。

○青山副委員長 以前にも質問したと思うんですけど、他の学校ですね、三石中学校であるとか日生中学校であるとか、そういったようなところ、この1年の間に調査されたり、そっちの改良をどうしようかとかという話はなかったですか。

○春森教育総務課長 委員会等でいろいろお話があったのは認識しておりますが、現状はこの繰越し予算だけと今なっております。

○青山副委員長 先ほども施設の老朽化がいろいろあって大変だと思うんですけど、まずはこの吉永中学校、備前中学校ということになると思うんですけど、あとの中学校についても現状を調査いただいて、以前にも言いましたけど、私は日生中学校が一番深刻な状況じゃないのかなと思います。その辺のところをまたよろしくお願ひしたいと思います。

○春森教育総務課長 現在いろんな学校をいろんな形で見せていただいておりますので、その中でまた日生中学校も確認してまいりたいと思います。

○青山副委員長 グラウンドの中にテニスコートがあったりするんですけど、その辺のところの、例えば一律真砂土でやるということなのか、テニスコート、野球場等、土壌改良についてはどのように考えられていますか。

○春森教育総務課長 今やっているものにつきましては、備前中はテニスコートの入っていない図面を先日配付したと思います。それ以外の、今御質問いただいたようなところを実施する場合は、その予算に合わせて施工する範囲が決まりますので、今現状では分かりません。

○青山副委員長 上土をとということなんですけど、気をつけなければいけないのは、要するに傾斜ですね、傾斜をどうつけるんかということで、ただ土を入れたら、逆にたまりやすいところに水が流れてということになります。備前中の形を見ても、北側にテニスコートがあったりします。その辺のところの配慮はされとると思うんですけど、外溝のあるところですね、溝のあるところへ持っていくような、そういう工法でやられるんですか。その際にあのテニスコートなんかのことはどう考えられていますか。

○春森教育総務課長 今回施工する業者さんからの提案としては、グラウンドの中央を少しカットした形で勾配を取ることで、周辺の地盤に水が流れるように施工しますという形で提案が出ております。

○青山副委員長 ぜひそのテニスコートのほうもいま一度考えていただいて、こっちでいうと西とか南に外溝がありますので、そちらにうまく水が導けるような、そういう傾斜配分をお願いしたいということをいま一度またお願いしたいと思います。

○春森教育総務課長 今回の事業については、この計画で今始まっておりますので、今後の検討にさせていただけたらと思います。

○青山副委員長 ここに傾斜の部分というのが出てないんで、業者の人もその辺を考えていただいとると思うんですけど、いま一度お願いをしていただきたいと思います。

○立川委員 こども基本法があると思うんですけど、専門家ですから、権利条約、4つの柱というのを言える方、いらっしゃいますか。

あるところがアンケートを取っておられまして、2022年3月ですけど、子どもの権利について内容までよく知っているという回答した、これ現場です、教員は2割にすぎず、全く知らない、名前だけ知っているという回答した教員が合わせて3割に上ると。だから、皆さん方はその3割の中に入っていると思うんですけど。何でこんなこと言うかというたら、昨年こども基本法というのが、家庭庁ができましたよね、あれと一緒に。あれの理念ですね。内閣府の外局ですけど。さっき言いました子どもの権利条約というのは差別の禁止、1点目。2点目、子供の最善の利益。3点目、生命、生存、発達に対する権利。4点目、子供の意見の尊重というのを基本理念でされておられます。

先ほど言いましたように、これを徹底できないんですね。教育委員会も御理解をあまりされていないんじゃないかと思いましたが、これが非常に大事なもんになってきておりまして、谷口課長、御存じだと思いますけど、学習指導要覧に今度入りましたよね。お役所というのは綱引きが大好きで、文科省やよそや、例えば今回ですと内閣府の外局やということで、うちは知らん、うちは知らんと。それではいかんということで、教育及び子供の福祉に係る施策により一層の連携確保ということが要請された附帯決議がついております。

文科省が消極的な姿勢を転換することになった大きな附帯決議となっておりますが、生徒指導提要というのが12年ぶりに改正されたんでしょう。その中に盛り込まれておるんですが、確認をいただきましたか。

○谷口小中一貫教育課長 生徒指導提要については確認させていただいております。

○立川委員 4つの原則の言及が初めて盛り込まれたんですね。先ほど言いました4つですね。同条約の理解は教職員、児童・生徒、保護者、地域にとって必須だと言えますと強調される文章が入っておるはずなんです。遅きに失したとはいえ、子どもの権利の理念を学校現場に基づかせていくための重要なきっかけとなりますということで、文科省も多分嫌々なんでしょうけど、取り組んで、先ほど言いました生徒指導提要に入ってきておると。これ子どもの権利、非常に大切なものになってきておりますので、これに対する考え方、当初お尋ねしましたが、4つの一般原則すら所管庁ではちょっと厳しいのかなという思いがしましたので、ぜひ取り組んでいただき

たいと思うんですけど。

○畑下総合教育部長 頑張って、これに基づいてやっていきたいと思っております。

○立川委員 1年前ですもんね、成立したのは。ですから、皆さんへの周知徹底、子供の差別はしたら駄目なんですよというのを盛り込んでおられるわけですね、一般原則として。子供たちの意見をしっかり尊重してくださいねと、先ほどお話ししましたように、例の障害の件でもそうなんですけど、ぜひ子供の声を聞く場所、取り組んでいただきたいなと思います。

やっぱり理念なり、そう難しいもんじゃないし、長いもんじゃないんで、やはり子供行政、教育行政にはおなかの中にぜひとも入れていただきたいなと思うんですけど。全ては子供たちにとこのぐらいは覚えとるでしょうけど。理念が4つ多分あったと思いますね。大きくは2つですかね。そういう思いで取り組んでいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○畑下総合教育部長 しっかり理念を入れてやっていきたいと思います。

○立川委員 進捗を踏まえて、また機会あるごとにお尋ねをしていきたいと思いますので、ぜひとも今度聞かれたらすっとお答えできるように希望しておきます。

○中西委員長 ほかには所管事務調査で聞いておきたいというのがありましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、所管事務調査を終了いたします。

以上で厚生文教委員会を閉会いたします。皆さん、御苦労さまでした。

午前11時30分 閉会